平新報

発行日　十日　日発行
一回一月毎
編輯兼発行人　印刷人　吉庄　市八
発行所　平新報社　磐城郡向二
発行所　福島県岩出山町字大宝　磐城郡出来
一部定価　拾円　一行　四十円
一行　五円
広告料　一行　四十円
送料　八円

謹啓　平新報綴刊
長瀬元治郎
神奈川県大磯町
山王町四七二

破邪顯正啓發運動

山野邊眞立

岩出人事構成

磐城市岩出本年度役つき左記

區長　鈴木一元
區長代理　山野邊公弘
農事班長　鈴木通
住吉神社総代　山野邊清
遍照院境徒総代従前通り
山野邊義輝第三小PTA評議員　山野邊ミヨノ
小名濱第二婦人会岩出班々長　寒河江キミエ
副班長　村上エイ子
土地改良區総代山野邊大藏

因みに今回青年で農事研究会を編成したが、これは結構な事である、かつて清さんが興農会をつくつたがこれも結構、但し黨中黨を造りなす事は大宇内の融合を乱す事になり面白い事ではない、林城にもかつて六人組なるものがあつた、かつて筆者が玉協の組合長で區長であつた当時を想起すると実に感無量である、競争でなつた役付きならある程度協力を欠いても良いが字内の總意で役をおしつけた以上、その役に協力せねばならぬ筈だ、ところが危害を加えるものでない、山田絲雨さんその後健在ですか、山野邊清さんが村上直さんに暴力を加えて警察騒ぎまでした事があつたがその後の心境は如何です故犬養さんでなくともはなせば判る、言論の自由（法の許す範圍で）の今日暴力は絶對排せねばならぬ、あの暴力國会は何たるザマだ国民の選良が、このあばれん坊を支持せねばならぬ気持も判らぬ、國際的、民族的にはどうか知らぬが彼らは自家撞着の言動をして居る、國際的には戰争暴力をやめよう等と主唱して内と共に神経痛では在平中の中野康平さん（当時の丸龜）を思い出すこれは故意にやつた事でなく筆者の油斷からであるから、こういう意味で暴力で他人には決して危害を加えるものでない、

◆次に駐在所巡査立寄場の木札の件だが筆者のうちは何拾年という立寄場であつたが今回山野邊大藏氏宅には何んでもかんでも闘争々々の文字を使い、それを大の喧嘩の如く檜舞台で公然演じて居る。憲法改正、是か非かの問題もあるがこれは後日に論評する事とする。

◆堤田の堤防地を土を取つて水田となし山野邊清氏が水稻を植えつけたが、これには何んでもかんでも闘争々々の文字を使い、それを大の喧嘩の如く檜舞台で公然演じて居る。憲法改正、是か非かの問題もあるがこれは後日に論評する事とする。

◆堤田の堤防地を土を取つて水田となし山野邊清氏が水稻を植えつけたが、これ

◆筆者が區長当時桜字田道路擴張して、筆者上水田、（五十五歩）を潰した折前もつて揃者宅に、若松清彌、村上

シヤツポの選擧

常磐市　山本達也

磐城市の市長選も終つて磐城市に新しいシヤツポが出來たわけである。新しいということは何か革新されたような、夜明のような感想をもたして、それ自体いいようである。

私は人物月旦をやる氣はない、あれは皆な事實を伝えていないからだ、どだい他人の正体などというものは、決してほんとにつかめるものではないからだ、人物評論というのは、他人にかこつけて、自らを語つているにすぎない、器用な奴が自分の影を相手の上にかぶせているだけだ、世ケンはそれで無事通過しているたというようなことは何か革新されたような、夜明のような感想をもたして、それ自体いいようである。

磐城市は常磐地方綜合開発の中心点だけに、磐城市新都市計画並に建設の方程式も、各人によつて情熱的に、色々と持合せていることも常然だろうし、其の色々な段階論も多くあつていいわけだ、したがつて'シヤツポを決めるとなると、表街道はです磐城市を愛やる方法論や、其の段階論がもつとはげしく大喧嘩となつて、競争をもつて争うということが、ものすごいものになるのも又止むを得ないうような選擧の場合には症状がひどいようである。

過程と結果ではあるわけだただ、選擧過程に育つてゆく、あの特異な精神狀態者の特異な精神狀態者ともしつくりいかなくなつた神病に犯されるものである特に天下分目の關ケ原と、症状がひどいようである。

感情火のついたにような精神狀態で、通稱イキオイ（勢）と云つているが、日にちがたつて冷靜になると實に馬鹿氣た精神狀態に氣の付く患者もあるが、大部分長期罹病の傾向が強いので階論も夢のように忘れ去られてゆく、恐るべき一種の病気でもある、迷惑至極な死民ということになる。

幸いに大磐城市は、一方ハラの人物、一方理の人物であつたゞけに恐るべき病菌を散布しなかつたことは、常磐地方の住民としては幸福なことだと思つている。

磐城市は常磐地方綜合開発の中心点だけでなく、吾が国の一大産業都市として新興の途上にある、特に常磐地方綜合開発は磐城市の一丸となつた大きな政治力の推進によつて、果實されることを思うとき、市民一体となつて、青天をおぎみる心境であることは勿論に結構なことである。

暑中御伺い申上げます

磐城市古港三二
田貫食堂
電話六〇五番

磐城市小名濱港
割烹旅館　幸樂
磐城市小名濱港電一〇三番

磐城市古港二五
宮下時計店

常磐市湯本
正木屋材木店
大平清太郎
電話二二二番

常磐市湯本吹谷八〇
佐藤質店

常磐市湯本天王崎
岩瀬屋藥局
藥劑師　青木稔

内科・外科
舟田醫院
常磐市湯本

内外科泌尿科
レントゲン科
渡邊醫院
常磐市三函二四〇

常磐市湯本驛前
新高パン店

勿来醫師会
勿来市植田町
（鈴木眼科医院）

磐城通運株式会社植田支店
支店長　坂本

勿来市錦町大倉字大島六六
錦町農業協同組合
組合長　鷲滑章

磐城市中之作
山田齒科醫院
山田眞三

玉川農業協同組合理事
鮫川堰土地改良區總代
鈴木芳之助
磐城市島

鮫川堰土地改良區總代
理事　竹原太津彌
磐城市住吉搦町八

磐城農業委員
磐城市土地改良區總代
遠藤英德
磐城市島

磐城市土地改良區總代
小泉高
磐城市大字島一一七

鮫川堰土地改良區總代
磐城市農業会委員長
村上重一
磐城市原木田

縣会議員　土木常任委員長
鮫川堰區理事磐城市小名濱
小野義一

磐城市会議員
第三小學校PTA会長
橋本雄吉
磐城市金成

磐城市農業共済組合
組合長　理事　柳井五郎
磐城市金成

鮫川堰土地改良區總代
理事　駒木根忠三

縣会議員　厚生常任委員
会田亮
磐城市小名濱

小名濱醫師團名杏会
（磐城市富ケ浦病院）

磐城市小名濱神明町十番地
衛生材料
化粧品類
富田藥舗

幸運兒 三代義勝氏 磐城市長となる

三度苦杯をなめた志賀要平氏 四度出馬の決意固し

一昨年一月の町長同五月の市長選擧以來全市を二つに割つて戰つた關ヶ原の大決戰は三度立花前市長派と社会黨とが推した三代氏の勝利となつたまづ數字がものいう左に

一二、四八二　三代義勝
一二、二三一　志賀要平
その差二百五十一票である

立候補まで

前市長立花秀吉氏病篤し逝くから立候補者の下馬評は志賀要平氏の三度立候は動かしがたく、新聞の報ずる所によると、長瀬彰義、三代義勝、大井川正巳、齋藤晃、大和田彌一の諸氏、磐城市勞聯盟（十四組合がある）で第一に高木保氏をあげ、續いて遠藤勝馬氏、小野務平氏、長瀬彰義氏、而して三代氏が立候と決定と共に三代氏を推した、初めから志賀氏の聲はなかつたものらしい、此處に同組合の幹部は自ら革新と自負するならば志賀氏を推さねばならぬのだが、志賀氏の後たてには小野義一氏あり保守と觀たのであろう革新の文字からすれば立花派は保守であり志賀派は革新と現実がものいうて居るのだが割り切れぬ点がある、志賀氏は起意固く、長瀬氏も立候の準備はして居り、立花派では候補者なく愈々策士の介入がなければ長瀬氏が立たざるとなれば志賀氏一人で無競爭と公私とも物心とも費消せずしてすんだのでこれが心ある市民の總意であつたのである、所が問屋はそうおろさないという諺から社会党が自ら候補も立てずして自民党の小野義一氏の推す志賀氏に對抗すべく立花派と一丸になつて三代氏を推したそれで三代さんは立ちおくれと稱して居つた、此處が割り切れぬのだ三代氏が社会黨に入黨したのでもなく（説明する迄もなく三代氏は無新とある）立派に立花派の重鎭である、三代氏と當選の曉は兩者で政策協定とか何とかそのビラをマキ市民を迷わしめた事は事實である、選擧最中は淺沼氏初め國会議員、縣議迄やつて來て三代氏、市議補欠戰の鈴木氏の應援振り加ひて、大井川正巳氏（民自党の幹部）小野義一氏の向うはつて三代氏の應援これも割り切れぬ否なスヂの通らない事、大井川氏は自黨のバッチのついた上衣を拔いてたり等して居つたそうだからその折は民自党を脱党した氣持だろうと聽者が語つて居つた此處に特記せねばならぬ点は比佐政種氏が前二回迄志賀氏の參謀であつたのが今回は中立となつた、ホラガトウゲよろしくあつた、長瀬彰義氏は第二回から立花派に好意を持つて居つたのだから今回は中立と稱して三代氏に應援した事は何も不思議ではない。

天下の幸運兒

三代義勝氏は二百五十一票のプラスで勝つて磐城市長となつたのだから漁業家で多忙だろうが公平無私、市政を司つて欲しい、氏は、無所屬なのだから社会黨や小野務平氏やボス連の應援で市長の座に据つたのだ等との考えをサラリとすて太平洋の荒波で漁する氣持ちで漁業組合長も辞したのだから磐城市長という事を忘れないで欲しい。

生活即ち政治、政治即ち生活という事がある、磐城市には農を業とするものが大半を占めて居る昔から農民を下ずみにおいたものは政治の上手なりと言われて居つた、只々心配なのは應援をうけた社会黨やトリマキ連に左右されぬ事である、氏を市長として認めない磐城市有權者投票者（有効）一万二千二百三十一があづた事は事實である、自治体に政黨者流が介入する事は以ての外であるがこれもやむを得ぬ事と割り切る市民ばかりとは考えられぬ、一番第一な事は納税意欲を高めて欲しい、農家等は借金までして納税して居る事は事實である、勝てば官軍という觀念を脱皮して敗者に同情一掬の涙あらば筆者の忠言を笑つてうけ入れば太平洋の波は高くとも荒れるとも善政を布き得るであろう、政治は力でない、正規な学校を踏んだ学問でない良識である一般大衆が納得し得る事である。

韓退之が曰く「物その平を得ざれば即ち鳴る」と黨中黨をつくる事は平和を亂す事だ、「天下に何者をも知り得るも自己のみは知れ得ず」とか天下の幸運兒力じるし三代義勝氏ロボットたる事勿れよろしく自己反省を切望してやまぬ。

敗軍の將 志賀要平氏に

捲土重來の意気で是非準備して欲しい、話しによれば聯合消防団長をやめになるとの事なるが四度出馬の決心なればもつての外で、自ら墓穴を掘る如きだ、組織の強い事は氏も万々認識の事と存ずる、今回の如きも消防組員の力、大したもので、組員中何割かは氏の反對派に廻つて居つたものもあつたでせう……が組員家族殊に青年婦人は氏に同情と尊敬を措いて居た事は實感した事である、兎に角くどい様だが四度馬を進めるとせば、いや是非進めてもらいたい、これは筆者一人の氣持ちでなく、氏の今回獲得した一万二千二百三十一人の總意であらふと信ずる、引いては磐城市政を思う者の念願であろうと信ずる、三度たたかつたとは云へ日時はさうたつて居らぬ、四度出でざれば三度に消したすべてものはドブの中に捨てたと同様だ、年は五十有一これからである。自重、自愛、從來の体驗を生かして善處を切望してやまぬ、母堂はまだ〳〵長命される、これは私心であるが母堂の存命中志賀要平氏市長を實現するもせぬも氏の努力次第である、黒岩涙香でないが「汝を救ふ力は汝自身より外にない」平常の言動が肝要である。

市議補欠邊（二名）

舊小名濱地區

四、七七四　飯塚　勝
四、〇六三　鈴木　勝夫
三、三〇四　飯塚進四郎

（評）七月二十九日（日曜）磐城市長選と同日小名濱地區市議補欠選（定員）の二名の所三名出馬勝（ミナト）氏は志賀派とダキアイ進四郎氏（クスリヤ）は三代氏とダキアイ鈴木氏は社会黨に此處に数に限りがある、社会黨は三代氏を推していたのであるから、進四郎氏が苦盃をなめた事が結果として現われたものである。

磐城市は小名濱市と

改稱するのが當を得て居る これは磐城市民の聲ばかりでない、国際的だ、

◆磐城市で市名変更問題が今頃變更などと騒いでるのはどうかして居る、市名とか町名等は廣凡に専有すべきでない。

◆さきに命名する折、泉、渡邊、江名等に諮問したがその折、渡邊、泉は小名濱でよかろうと答いて來た、[illegible]が江名は磐城と命名つて來た、勿論舊小名濱（当時は[illegible]川も鹿島も合併ずみ）五對一なのだから当然小名濱とすべきであるが江名に左右された事がおかしいのだ、

◆過般小名濱港開港祝賀があつた、実際考えさせられる、昔磐城の國と言えば石城郡、双葉郡、相馬郡、宮城縣の伊貝郡まで田村郡の一部も入つて居る。

◆常磐市も湯本町、磐崎村鹿島村の一部と構成したのだ、こゝは常磐炭礦名に支配され常磐市とした、炭礦なんて永久に續くものでない。

◆其處へ行くと勿來市、平市は當を得て居る。

◆どうです皆さん東京都を日本都としたら、日本都中野區なんて事になる、市名の變更郵政關係は局名を變更して居るが鉄道關係は驛名を變更して居らぬ、それで良いのだ、めつたに固有名は變更すべきない、吸收合併とか、對等合併とかは問題じやないですが、細かい規則は判らぬが市名變更が今日出來るとせば磐城市は小名濱市、常磐市は湯本市と改めるが結論であろう、くり返してものするが小名濱の開港祝で痛感した一人で、昔から人の悪いのは磐城の平、それに次ぐ小名濱、小名濱は天領であり平は水が悪かつたらしい、今頃市名變更等と騒ぐなら何か故當時市民の投票でやつて市民の總意を聞かず、一當局、議員のみで決定したか、これが民主的でなく彼らは一人の力で議員になつたり市長になつたつもりで大衆、選擧民の意志をくまぬ証據である、所謂下からもり上つた政治でなく天下り式政治ばかりして居るのである、長いものにはマかれろ、駄々子の力に屈服したのである、大衆の便、不便などは眼中にないと批判されるも當然である。

× × ×

選擧後日物語

眞夏の読みもの 裏話しは抜きにする

保守系の国会議員は 石城郡に一人もいない

過般の參議院選擧で保守派の木村守江氏が落ちて、田畑氏松井氏加いて大河原氏の三人とも社会黨員で占めた、組織の力常磐市長矢吹さんが松本氏と一騎打ちして松本氏を押えた事があるこの折も磐城市の如く表面に推さなかつたが常磐の社会黨は矢吹氏に好感を以つて應援したことは事實であつた、かるが故に今回は志賀派がかつての違反サワギがたたつたにしろ、社会黨の反激を食わねば主客顚倒したかも知れぬ、

投票意慾

◎今回の磐城市長選で投票八八パーセント六二とあるが好い成績であつた、「タテ食う虫もすきずき」で氣持の結合はやむを得まい正しいことを好きな人は正しい方へ邪心を持つ人は曲者に、此處に心の戰いがあるのだ、かるが、故に正しいもの必ずしも、普選の今日勝つものではない、多數必ずしも正しきにあらざるも現代の規則機構は多数決である、機万公論に決すんしでなく万事多数決である勝てば官軍の諺も眞理となる理である。

土地改良區委員長問題

小名濱の土地改良區はながく許可が來ぬのでそのまゝにして居つた、此の程總代の選擧があり總代が会合して理事、監事の推せん会を開催したそうだが隨分と人を馬鹿にした推薦振りで金成に二名の理事を置いたそうだ、理由は二名とも現職市会議員だからだそうだ、金成は岩出と耕地等は広い多いか知らぬ人には同じ位だろうこういう時の選擧土地の広狹で投票するのではない、投票するのは人だ、そんなこんなで實際割り切れぬ納得出來ぬ委員長か理事長か知らぬが未だ決定せぬそうで、島や野田は監事をあてがはれて大不平である由、筆者は常に唱導する点は此處である、何人も納得し得る公平に不平者を出さぬ人事をするのが民主政治というのである、こんな八百丁的な事をやるから不平が出るのであるこれでは區の運營等円滑に行くものでない。

◎昭和三十年二月の衆議院議員選擧當時左の如き推薦ハガキが磐城市地方に配られた、

高木松吉を推薦致します

推薦者

磐城市議会議長　長瀬彰義
〃　副議長　江尻　鄕
磐城市議会議員小野直千賀
〃吉田六右衛門〃小野務平
〃高木嘉一郎〃吉田伝兵衛
〃小林重之〃水野利一〃木田谷平〃合津勉

◎三代義勝、小野作太郎、江尻三睦郎、高木武士、鈴木治作、鷲幸江、加澤定男中田武雄、小野忠泰、及川武夫、野口茂、坂本義友、追込戰にて善戰して居ります、三區よりの初めての大臣高木先生のために御支援下さい」と此處で考えさせられる事は右のうち当時は市長は故立花市長であつたかつては故立花氏は關内氏の支援者であり小沢氏の出現！小沢氏と近親なるが故判る、小野務平氏長瀬彰義氏も、かつては關内氏の支持者當、時諸橋元三郎氏は事務長ではなかつたが萩原氏と參謀、江尻氏は元三郎氏の義弟たる事は江戸内として世間衆知の事實であるこんな事は社会黨にはない様だ、その當時高木松吉氏も關内正一氏も民主黨公認候補で高木氏は双葉郡出身人の離合集散出所進退、不可思議千万、良識では割り切れぬ点益々あるどうも選擧は感情と勘定と交錯して公明選擧等とはいつの事やら判らなくなる。

◎江戸内鄕さんもそうだが今回の磐城市長選で何が故に矢吹アサ子（法學士）氏が志賀氏の應援演説をしたか（演説で動く票なんてそうないが）矢吹さんは常磐市長失吹莊司さんの女であつて人も知る矢吹さんは高木松吉派で即ち、志賀に同情は持つて居らぬ筈だ、アサさんは平の平松さんに居られる、平松さんと志賀さんはどういうかんけいか判らぬが此處に高木松吉さんが介在して變な話があつたが如何に親子でも人權蹂りん選擧防害になるから紙上公表は略する事にする。

◎下川の演説会（志賀派）に對する選擧防害、暴力行爲は警察沙汰になつたが新聞には後日話しが出ぬ様だ

◎いつの選擧も同じだ、一世帯で候補者二人なら二分して行使する、今回の市長選にも隨分あつた様だ、兩方に義理があるからだといやはや益々選擧は主義政策人物本位でなくなる、これが商人に多く農民でも簡順式の性格者に多いが笑い事にあらずである

予告【故山崎先生追悼号】故山崎宣吉先生は、新盆に當りますので本月拾五日附追悼号を從來の二倍を発行印刷し主に先生の教えをうけた舊磐中（磐高でなく）同窓生、当時の職員に配ります。

昭和三十一年八月十日
平新報社　山野[illegible]眞立

暑中御伺ひ申上げます

平市五丁目　諸橋元三郎
磐城市六農協連絡協議会会長　駒木根忠三
住吉郵便局　鈴木一平
磐崎郵便局　大平純一
常磐市農業委員　瀧彌二丑
常磐市議会議員　總務委員　御代武光
常磐市議会議員　總務委員　磯上佐衛司
常磐市議会議員　農林委員長　瀧義勝
常磐市農業協同組合　組合長　瀧義勝
常磐市磐崎小PTA　会長　箱崎幸廣
常磐市磐崎中PTA　会長　磯上佐衛司
湯本温泉旅館組合
常磐局電話二二七番　白鳥鑛泉　喜樂
常磐局電話三三〇番　鑛泉旅館　姥の湯　若松茂
松や書店　常磐市湯台堂通り
いそがみ穀物店　磯上久美　常磐市西郷
農機具種子セメント瓦工業　織内農機店　常磐局電話一四八
常磐市教育委員会